

災害時から考える地域の ネットワークづくり事業を行いました

平成25年10月12日(土)、災害救援ネットワーク北海道 代表 山口 幸雄 氏を講師に招き「西泉町内会」と「東町内会」でマグニチュード9.0、震度7の地震が発生し、水道は断水、電気は停電、ガスは停止した状態を想定しての防災訓練を行いました。この事業は、災害が発生した際の近隣住民同士での助け合いの大切さ、そのための関係づくりを目的として実施しており、今年度は更にそこから一步前進し、より実際の「災害」をイメージしてもらうことに重点を置き事業を実施しました。



西泉町内会編 (午前の部)

【ワンポイント】～空き缶切りが出来ない子供が両親や町内会の大人に習いできるようになりました！

午前9時30分～午後2時まで、西泉町内会避難所に集まり、今出来ることは何か？お腹が空いた時はどうするかを食糧班、燃料班、水確保班の3つの班に分かれて考えていただき、災害時に使えるような資源や身の回りにある道具の活用方法について様々な意見が挙がりました。

また、当日参加して頂いた町内会に「空き缶」をお持ちいただいて自分で火を起し空き缶で米を炊く炊き出しも行い、講師の山口 幸雄 氏から

「チームワークがいいね！」と太鼓判をいただきました。

使えるものがほとんど何もない状況の中で実際に被害が出ている想定のもと、訓練を実施したことで災害に対する日々の備えと災害時の行動について考えていただく機会とすることができ、町内会の方々からは今後に向けて「町内会で味噌を作って備蓄しよう」「サララップ、ガスボンベ、無洗米の備蓄を増やすように検討しよう」

など様々な意見が出ました。

西泉にはパン屋、米屋もあるから食料は調達できる！

町内会行事で余った炭で火を起こせる！井戸水がある！



《空き缶でご飯を炊きました》

● 西泉町内会から下記の結果報告便りをいただきました



ビール缶、ジュース缶でご飯を炊いたが、予定時間40分で炊き上がり、食べても美味しかった。

西泉町内会自主防災会として保存・保管して置く機具、非常食等も明確になってきた。



災害救援ネットワーク北海道 代表 山口幸雄講師の講話も参考になった。

西泉町内会緊急避難場所経路（中標津運動公園内第2集会室）の確認、誘導訓練が出来た。



災害救援ネットワーク北海道 代表 山口 幸雄 講師

東町内会編（夜間の部）

【ワンポイント】～暗闇での作業は手元が見えず大変でした。
懐中電灯は非常時に欠かせない必需品です！

午後4時～午後8時まで、東町内会館にて今回初の試みとなる「夜間」に実施しました。夜間は気温も下がり電気もない中、懐中電灯、ランタンのみを頼りに、男性は暖をとるため薪や枯葉で火を起し、女性は手先が冷える水仕事を創意工夫しながら率先して行っていました。



《紙を丸めて米を空き缶に詰めています》

空き缶の米は水の他、緑茶、コーラで炊き上げ試食した感想は、緑茶は美味しいと好評でしたがコーラは…。

また、同時に社協が持参した非常食の「わかめごはん」をお水とお湯のどちらで作るのか考えていただき、お湯を沸かす手段など知恵を出し合い、慣れない暗闇のなか皆さんで分けあって食べることの大切さも学びました。



《炭が燃えるまでうちわで煽ぎました》



《冷水で米研ぎ》



《グツグツ加熱中》



《少年も参加！》



《便利な非常食》



講師の山口 幸雄 氏より、空き缶の米は1回濯ぎ米の1.2倍の水を入れティッシュを丸めて蓋をしてから水がなくなれば出来上がり、缶を火から離して熱くない程度まで蒸らしました。時間に決まりはなく、感覚で覚えて子供にも伝えてほしいとお話がありました。

●東町内会参加者の声●

- ・今後、町内会館に非常食や家で使わない毛布を備蓄しようと思う。
- ・自分の住んでいる町内会に何があるのか今一度確認する良い機会となった。
- ・災害に対する意識が高まった。

湧水が2ヶ所あるから水は確保できる！



缶で炊いたご飯も美味しい！！



非常食のえびピラフが水を入れるだけで出来るなんて凄い！

非常食のカレーが温かくなることに驚いた。

中標津町総合福祉センター『プラット』内に展示しています！



災害時の対応について検討中の町内会の皆様是非お声掛けください。

■問い合わせ先

社会福祉法人 中標津町社会福祉協議会
地域支援業務担当 TEL 0153-79-1231

